

2022 度（第 12 事業年度）

「事業報告書」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

2022年度の当財団の活動は、利用者がRubyを安定して利用できるよう、また便利に使えるように、Ruby安定版の保守事業、公募型開発プロジェクトの開発支援、Rubyの開発コミュニティに対して開発サーバー費支援を昨年度に引き続き継続しました。これらの開発による成果は、多くのRubyユーザーに恩恵をもたらすことが期待されます。

また、Ruby技術者認定試験を改訂し、Ruby Association Certified Ruby Programmer version 3の配信を開始しました。

昨年度と同様新型コロナウイルス感染症の影響により集客型のセミナーは開催できませんでしたが、代わりに開発助成の成果報告会やRubyビジネスセミナーなどをオンライン開催し、当日の動画を公開することにより情報発信を行いました。

当財団は、その目的であるRuby関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野におけるRubyの利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の2022年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2022年度評議員

- ・ 出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・ 大場 寧子 (株)万葉
- ・ 小崎 資広 富士通(株)
- ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・ 千種 実 (株)日立ソリューションズ
- ・ 中島 宏 (株)DTS
- ・ 羽田 昭裕 BIPROGY 株式会社
- ・ 森 正弥 デロイト トーマツ(同)

2) 理事

- ・ 代表理事理事長 松本 行弘
- ・ 副理事長 井上 浩
- ・ 理事 橋本 明彦
- 田中 和明
- 笹田 耕一

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一 (公認会計士)
- ・ 顧 問 上定 昭仁 松江市長、丸山 達也 島根県知事

- ・事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ1名と外部委託1名の体制です。その他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。また、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・委員長 立久井 正和（評議員）
- ・委員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、高橋 征義（外部委員）、田中 哲（外部委員）

3 実施事業

1) Ruby 開発及びその他支援事業

(1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、開発助成委員会で選考の結果、以下4件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2023 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・応募件数：6 件
- ・採択件数：4 件

| | |
|--|---|
| ① 採択者：西田 孝三 | プロジェクト：RubyDataエコシステムへのQuartoの導入とその利用の推進のためのコミュニティ活動 |
| <p>このプロジェクトでは、Quarto を RubyData エコシステムに追加し、その使用を促進するためのコミュニティ活動に取り組む。</p> <p>Quarto は、Pandoc 上に構築されたオープンソースの科学出版システムである。Quarto は、Jupyter カーネルなどを使用して、プログラム実行結果を含むコンテンツをさまざまな形式で生成することができる。</p> <p>このプロジェクトの実現を通して、Quarto の利点を（Python/R だけでなく）Ruby コミュニティにも共有する。</p> | |
| ② 採択者：鈴木 弘一 | プロジェクト：RedAmber - A simple dataframe library for Ruby |
| <p>RedAmberは、Rubyで書かれたデータフレームライブラリである。データフレームとは、列方向に同じ型のデータを保持する各種データ処理に適した二次元のデータ型である。RedAmberはバックエンドにRed ArrowのTableを利用しており、高速性、汎用性、機能性、将来性が期待できる。列方向のデータはVectorと呼び、各種ベクトル演算のメソッドを使って列方向や列同士の演算を直感的に記述できる。これは同じくRubyで書かれたデータフレームライブラリであるRover(rovers-df)を参考にしている。また、ブロックやメソッドチェーン、汎用のRubyコレクションクラスを利用して、Rubyらしくシンプルな書き方のAPIを目指している。</p> <p>今年度の活動として、更なる機能の実装、Red Arrowへのフィードバックを通じた貢献、パフォーマンスとコード品質の向上、ドキュメントの整備、普及活動に取り組</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>んでいく。</p> | |
| <p>③ 採択者：unasuke</p> | <p>プロジェクト：RubyによるQUICプロトコルの 他言語からの移植ならびに独自実装 の作成</p> |
| <p>2021年に標準化されたインターネットプロトコルであるQUICの利用は急速に広まっており、様々なプログラミング言語による実装が盛んである。中には複数の実装があるプログラミング言語も存在する。しかし現時点で公になっている、Rubyによる実装は存在していない。 このプロジェクトでは、最終的にRubyによるQUICプロトコルの実装を作成することを目指す。まずはその前段階として、Rubyに似たPythonによるQUIC実装である、aioquicをRubyに移植することで、QUIC実装の指針、知見を構築する。</p> | |
| <p>④ 採択者：株式会社Ruby開発</p> | <p>プロジェクト：Rubyリファレンスマニュアル改善 計画 2022</p> |
| <p>Ruby リファレンスマニュアルを生成するために現在は BitClustを利用している。BitClust は RD に独自のプリプロセッサなどの機能を足し、インライン記法などを変更した RD ベースの記法を使っている。 現在 RD ベースの記法はポピュラーではなく、Ruby リファレンスマニュアルのコントリビュートをしようとしても、RD ベースの記法を習得することが困難な状況にある。 そこで、本プロジェクトではドキュメントのソースを RD ベースの記法から、現在プログラマーの間で最もポピュラーだと思われる Markdown ベースの記法への移行を目指す。</p> | |

(2) その他の助成

用途を限定しない助成金の申請窓口を設置し、公募型開発以外の分野でも助成を受け付けましたが、2022年度は申請がありませんでした。

(3) Ruby 安定版保守事業

ユーザーが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、昨年度に引き続き中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は 2023 年 3 月 31 日までです。また 2022 年度も引き続き、アメリカの非営利組織である Ruby Central より本事業に対して助成金の交付を受けました。

(4) サーバー運営支援

Ruby の開発コミュニティに対して開発サーバー費を支援しました。

2) 情報発信事業

(1) 事例紹介

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業の企業担当者にオンラインで取材し、概要情報と詳細情報を作成しました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザー(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザーに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2022年度は新たに5件の利用事例を紹介しました。

| 2022年度掲載企業 | テーマ |
|-----------------------------------|--|
| ピーディーシー株式会社 | デジタルサイネージを利用したデジタルマーケティングプラットフォーム「OneGATE」 |
| 公益財団法人しまね産業振興財団 しまねソフト研究開発センター | IoT システムのハードウェア/ソフトウェアを全て Ruby で実現 |
| 株式会社 Relic | 顧客の事業や地域と共に会社もメンバーも成長していきたい |
| JUKI 松江株式会社 | 縫えたんじゃない、縫ったんだ! |
| 株式会社 Shippio | 多様性を重視したアジャイル開発を Ruby と共に |

(2) RubyWorld Conference 2022 の開催

2022年11月10日(木)、11日(金)に島根県松江市で開催された RubyWorld Conference 2022 において開催実行委員会の構成団体として参加しました。

(3) Ruby ビジネスセミナー開催

①Ruby ビジネスセミナー

2022年度も引き続きオンラインでイベントを開催いたしました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。

| 開催時期 | イベント名 | 参加人数/登録者数 |
|----------|-------------------------------------|-----------|
| 2022年7月 | Ruby 技術者認定試験合格者ミーティング with まつもとゆきひろ | 5名/8名 |
| 2022年7月 | Ruby Association Activity Report | 38名/50名 |
| 2022年12月 | Ruby セミナーOnline「Hotwire ことはじめ」 | 70名/81名 |

※新型コロナウイルス感染症の国内における状況を考慮し、2022年度はすべてオンラインにてセミナーを開催しました。

②Ruby イベント開催

Ruby を利用、開発している団体と共同でイベントを開催しております。

- ・2023年2月 Ruby30周年記念イベント
『The 30th Anniversary of Ruby
-プログラミング言語 Ruby30周年記念イベント-』
日時：2023年2月25日(土) 13:30-17:45
Official Site：<https://30.ruby.or.jp/>
YouTube(アーカイブ)URL：<https://youtu.be/cmd5NdMjHkI>
ライブ配信時視聴者数：255名
視聴回数(視聴者数)：1,748回(名)
※視聴回数(視聴者数)は、2023年2月27日(月)12:30時点

(4) ジョブボード

昨年度から引き続き Ruby の求人情報を掲載できるジョブボードを提供しています。Ruby アソシエーションの協賛会員を中心とした Ruby の求人情報を掲載しております。(非会員企業も求人掲載可能)

(5) ウェブサイト

多言語化の取り組みの1つとして英語に引き続き、中国語のサイトを提供いたします。

4) Ruby 技術者認定試験事業

2022年10月1日より旧試験を改訂し、Ruby Association Certified Ruby Programmer version 3 の配信を開始しました。

学割に関しては認知度向上に伴い、昨年度と同等の受験者が学割を利用して受験をしています。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Ruby の高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Ruby の教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Ruby のサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Ruby アプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。

2023年3月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

| 認定種別 | Gold | Silver |
|--------------------|--------|--------|
| 認定システムインテグレータプログラム | 35(36) | 41(43) |
| 認定教育機関プログラム | 6(5) | 2(2) |
| 認定サポート事業者プログラム | 2(2) | — |
| 認定クラウドサービス事業者プログラム | 2(3) | 0(1) |

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

・会員資格

法人、任意団体及び個人

・会員種別、会費

年会費 1口 10万円 (4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上 (50万円以上)

②Gold Sponsor 2口～4口 (20万円～40万円)

③Silver Sponsor 1口 (10万円)

2023年3月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

| Platinum : 年間5口以上 | Gold : 年間2口～4口 | Silver : 年間1口 |
|----------------------|-------------------|------------------|
| 14(11) | 16(15) | 45(50) |

※()内は前年度数